

# 復興に駆ける！

第 26 号

平成 26 年 5 月 15 日発行

岩手県立

生涯学習推進センター

TEL 0198-27-4555

◇ 今回は 3 月に行われたフォーラムを紹介

## 公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構主催 「東日本大震災生活復興フォーラム」



基調講演した広田教授

このフォーラムは、平成 26 年 3 月 19 日に、TKP ガーデンシティ仙台で開催された。主催は兵庫県の「公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構」で、復興庁の委託事業として行われたものである。この機構は研究調査のほかに、「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」や「兵庫県心のケアセンター」を統括している法人である。

当日は、谷 公一復興副大臣も参加し、会場は 200 名を越える参加者で満席であった。岩手大学農学部の広田純一教授が「東日本大震災の生活復興～コミュニティの再生を目指して～」と題した基調講演を行い、本県の復興状況や地域コミュニティの現状と課題などを踏まえ提言を行った。

活動報告では、宮城、福島、岩手それぞれから発表があり、本県からは、「NPO 法人いわて NPO-NET サポート」菊池広人事務局長が、北上市で行っている内陸避難者への支援活動や大船渡市、大槌町での支援活動の状況について発表した。その後は、研究機構の清原桂子副理事長がコーディネーターを務め、広田教授を含めた 6 名によるパネルディスカッションが行われた。パネリストの一人である「NPO 法人@リアス NPO サポートセンター」鹿野順一代表理事は、4 年目を迎えた地元釜石の現状について報告した。その中で、「行政であろうと市民であろうと、立場が違っただけで、復興への想いは一緒である。自分たちが胸を張って町を次世代に引き継ぐためには市民力の醸成が課題である。」と語った。

最後にコーディネーターの清原氏は、「兵庫県民は東日本大震災を決して忘れない。引き続きできる限りの応援をしていきたいと思っている。」と強調した。同氏は、兵庫県庁の OG で、現在は県の参与も務めている。3 月 5 日には神戸市でも同様のフォーラムを開催し、遠く離れていても震災の想いを共有しようと活動が続けられている。

みつはし  
(※本フォーラムに三橋が参加した。)



震災後 3 年間の活動をまとめた報告書

連絡先

公益財団法人ひょうご震災記念

21 世紀研究機構

TEL 078-262-5570(研究調査部)